



ふたばっこだより

2023年
4月27日(木)
No.1

ふたば園では、豊能町の自然の豊かさを感じられるように、さまざまな体験や活動を積み重ねてきました。今年度も生活やあそびの中で、「豊能町で育ってよかった」と思えるような活動を続けていきたいと考えています。保護者の皆さまにも子どもたちが豊能町の自然をどのように楽しんでいるのかをお知らせするために“ふたばっこだより”を発行しています。お家でお子さんの話を聞きながら、おたよりを読んでくださいね。

畑やプランターの土作りをしました！

20日(木)にミミズマンションの土を出し、24日(月)にその土と肥料を畑やプランターに混ぜ込みました。マンションには新しい土を入れ、ミミズはそこに引っ越し。ミミズが土の中へ中へと潜り込もうとする様子や小さな小さなミミズの卵を見逃さないように、目を凝らして土と向き合う子どもたちでしたよ。ミミズの引っ越しは幼児クラスだけでしましたが、土作りは乳児クラスの子もたちががんばりましたよ。



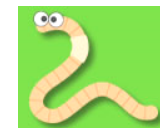
新しい土(左)とミミズが作ってくれた土(右)を子どもたちに見せると「いろいろがう！」と、すぐ気がついていました。(栄養満点の土の方が色がとても濃いです)ミミズのかってすごい！



ミミズ、いたよ～



ミミズが栄養満点の土にかえてくれるという話を聞いて「やさしいね～」という声が聞こえてきました。



みみずの取り組みについて

幼児棟の玄関に置かれている青色のボックスは、“ミミズマンション(ミミズコンポスト)”と呼ばれていて、シマミミズ(釣りの餌になっているもの)が住んでいます。ミミズマンションは3階建て。2階と3階にたっぷり土が入っていて、ミミズが行き来しています。3階に、野菜や果物を入れてあげると、ミミズは食べ物を分解し土の環境を整え、排泄物(おしっこやうんち)は、食物・植物が育つ栄養となるのです。1階に溜まってくる液体を『みみずのちから』と呼んでいます。みみずのちからは、とても良い天然の液肥で、野菜はもちろん、花や観葉植物にも効果抜群です。

シマミミズを飼い始めたのは、豊能町がゴミの分別を始めた頃で、環境問題と並行して、人権保育の視点からも当番活動を見直して取り組みました。『捨てればゴミとなって、みんなの地球が汚れるけど、ミミズにあげると栄養の土となって、きれいな地球を守れるんや!』と、子どもたちと共に続けてきている取り組みです。一般的にミミズは、気持ち悪いもの、触りたくないというイメージをもたれがちです。身近な活動経験から、このような意識も変わってほしいなあという願いをもって取り組んでいます。

子どもたちにとっては、「科学の興味」への一歩になったり、当番活動を通して、友だちと協力することを知ったり、ルールがあることを学んだり・・・と、たくさんのことを学習できる活動です。自然との関わりを深め、生命の尊さにも気づいてほしいと願っています。どうか、おうちの方もミミズの取り組みを理解していただき、『ミミズって、すごいねなあ。』という見方で、一緒に子どもたちの興味関心を深めてもらえたら嬉しいです。

みみずの液肥をペットボトルに詰めて『みみずのちから』を作っています。玄関に置いてありますのでご自由にお持ち帰りください。野菜、花、観葉植物などに使ってください。ジョウロの水にペットボトルのキャップ一杯ほどのみみずのちからを入れて、水やりをしてください。

